

〈第67号〉

2015. 12. 13

泉生産組合だより

発行人: 矢來幸位知

収穫に感謝し玄米奉納

國造神社で新嘗祭神事



國造神社の新嘗祭が12月13日行われ、泉生産組合の農家から今年収穫した「ゆめみずほ」の玄米が奉納され、太陽や大地の恵みに感謝の気持ちを新たにしました。田中正真宮司の神事に続いて生産者を代表して前川昭治さんが玉串を捧げました。新嘗祭は天皇が新穀を天神地祇にすすめ、また親しくこれを食する祭儀で、11月23日に行われ、戦後は勤労感謝の日として国民の祝日になっていますが、國造神社では12月に行われ、自然の恵みに感謝し、地域の平穏をお祈りしています。かつて國造神社では農家が主体となって「いり粉祭」の祭儀が新嘗祭で行われ、煎った大麦を神前に供える珍しい風習が伝わっていました。いり粉は漆の下塗りに活用されたことから、いり粉神事は塗師屋さんの信仰も厚く、藩政時代には大聖寺藩主が木地挽き業の隆盛と除疫の祈願のため藩士を代参させるなど注目されていました。残念ながら大麦栽培が廃れて自然消滅し、今ではいり粉祭の記憶が残っている農家の人も少なくなり、農家の新嘗祭に対する関心も次第に薄れてきたように見えます。

報恩講 12月22日(火)午後5時半から安楽寺